

科目名		病態制御内科学実習	
科目責任者	中山田 真 吾	(第1内科学 教授)	
担当者	久 保 智 史	(第1内科学 准教授)	
	山形 薫	(第1内科学 講師)	
開講時期:	2～4年次	単位数:	6 単位
		時間数:	90分× 90 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>指導教員と十分に議論し、研究者の希望、世界最先端の流れを考慮し、最も興味深く、実践可能な研究テーマを臨床免疫学、リウマチ学、内分泌学、代謝学(糖尿病学)、感染症学等に関連した分野の範囲で選択する。また、研究の方向性や研究倫理などの指導を受け、研究の組み立て方を学ぶ。次に、具体的な研究手技・手法、得られた結果の解釈、新たな研究目標の設定については、教員から指導を受けると同時に、他の大学院生を含めたグループ討論を反復して、実践的、効率的、有機的な研究を実践、展開する。さらに、議論の反復により、科学的、創造的な研究思考を習得し、疾患の病態制御を目指した研究に発展させる。研究の計画、経過、結果、考察などはリサーチカンファレンスなどで適宜発表し、科目責任者ら議論をする共に、結果のまとめ、学会発表等においては、聴衆を意識したより高度のプレゼンテーション能力を身につける。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) リウマチ・膠原病疾患、内分泌・代謝疾患、感染症の治療標的分子を論じることができる。 2) これらの疾患群における基礎的および臨床的アウトカムを評価できる。 3) 臨床検体を用いて形態的および機能的アプローチにより病態を評価できる。 4) 分子生物学的手法による細胞機能解析の実践と結果の評価ができる。 5) 多施設共同研究の意義とその問題点などを理解して実践する。 6) テーマを遂行する意義と重要性を理解し、高度な社会的ニーズに答えるべく研究計画を構築する。 7) 得られた結果の病態における意義と疾患の臨床像との因果関係を考察することができる。 8) 得られた結果を疾患の病態制御への応用に関連づけて考察することができる。 9) 得られた結果の問題点、課題、解決策を考察することができる。 10) 他の大学院生を含めたグループ討論を反復し、実践的、効率的、有機的な研究を展開する。 11) 国内外のカンファレンス、セミナー、研究会、学会等において積極的に討論することができる。 12) 国内外のカンファレンス、セミナー、研究会、学会で、論理的、明確なプレゼンテーションができる。 			
● 評価方法	発表等 60%、討論等 20%、レポート等 20%により総合的に評価する。		
● 参考文献	実習の中で必要に応じ紹介する。		